

# 情報と交流の広場

## 大型風力発電事業

### 市民と共同し撤回させた（山形・鶴岡市）

党山形・鶴岡市議

菅井 巖



私の住む山形県鶴岡市大山地区にはラムサール条約に登録された上池・下池があり、背後の高館山（自然休養林）を含め自然豊かな市民の憩いの場で、二百種類を越す鳥類が生息しているとされています。いまの時期は越冬のため飛来した白鳥やガン、カモ類などを見る野鳥愛好家やカメラマンも多く、湖畔を散歩する人の目も癒してくれます。

### 突然の大型風力発電計画

大山地区と高館山を挟む位置にあ

る加茂地区の通称「加茂山」周辺に、ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)（本社・東京、JRE）が最大出力六千瓩×八基の大型風力発電計画の情報が寄せられたのは二〇二二年二月でした。党支部長から、地区自治会の広報に風力発電建設の記事が掲載されたことを知らされました。

JREは二一年十一月に本市の三瀬地区・八森山に三千四百瓩×五基の風力発電を稼働しています。近接する上郷地区との山間では三瀬矢引風力発電事業（四千三百瓩×七基）

の環境アクセス手続きを進めており、加茂地区の計画はそこから山並みで連続するものです。近接地区でも事業説明会をおこない、各種調査と環境アクセス手続きを経て県・国から事業計画認証され、早ければ二六年頃の工事着手、二九年一月頃には運転開始予定とされていました。しかも同地区の説明会への参加者は自治会役員、町内会長ら約二十五人と少数で、地区住民にはほとんど知られていませんでした。

私は二二年三月議会でこの説明会の状況や、二〇年に住民運動で出羽三山地域周辺の風力発電事業計画を撤回させたことを機に改正された市の「風力発電設置等に係るガイドライン」に照らしての認識、県条例やラムサール条約との関係についての市の見解について質問しました。

当時の市民部長は、事業者に対し

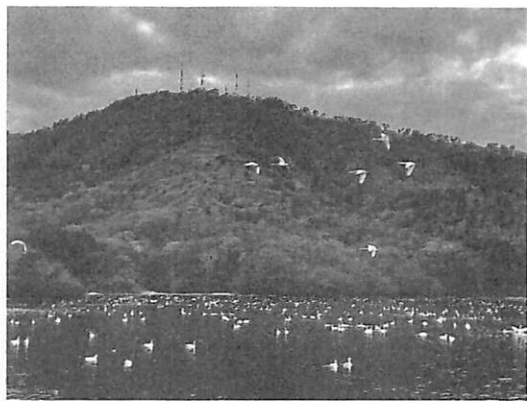
て景観への配慮、環境への影響回避を図るよう意見することや、市ガイドラインに基づく想定事業区域から二キロ以内の住民・自治組織への事前説明、具体的資料の提示と合意形成を強く求めるとしました。



### 住民と党の共同の運動を開始

JREは二二年六月下旬から七月にかけて「事業判断にむけた風況調査をおこなう観測塔設置の同意を得たい」と周辺地区での説明会を開催しました。大山地区の参加者からは、開発による自然環境や動植物、渡り鳥への影響、鳥獣保護区・ラムサール条約との関係、低周波音による健康被害、建設工事の課題などの懸念の声が出されました。

その後、JREが計画予定地に一番近い町内会で説明会を開催し、懐柔策をとりながら同意を取り付けた



白鳥が飛来した大山下池

ことを受け、大山地区では自治会評議委員会が開かれ、反対の声も上がる中、賛成多数で同意されてしまいました。

この同意によって風況観測機材を設置する動きが始まり、実質的な環境アセス手続き準備に入れば事業中止を求めることの困難が予想されました。そのため、広く住民に実態や問題を知らせる組織的な対策が必要と考え、党支部や地区委員会、関係者、関係役員等と相談し、自然保護などに取り組む方がたとえ情報交換をしつつ運動がスタートしました。

自然環境保護団体「出羽三山自然を守る会」は、九月七日に皆川治鶴岡市長に面会し、事業者への中止を求める要望書を提出しました。皆川市長は山形県の再生可能エネルギー活用可能性調査報告書で「ラムサール条約湿地近くの風力施設建設は望ましくない」とあり、これを参考にして市議会での議論や内部精査を進めたいとしました。

十月には地域NPOや自然保護団体などの有志が「ラムサール湿地近接風車建設に反対する会」の準備を始め、地元関係者や協同組合、大学や日本野鳥の会、里山の自然・歴史を守る活動を続けてきた方々も呼びかけ人として広く募り、一万筆を目標に署名活動を展開してゆくことを確認しました。十一月二日にはテレビ、新聞各社にたいする記者会見を開き、「反対する会」が発足し、運動が正式にスタートしました。

党支部では、地域後援会が毎月発行し約二千の全戸に配布している「おおやま民報」に自然保護関係者から、風力発電計画とラムサール条

約登録地の鳥類や自然環境への影響について連載の寄稿を頂き、住民へ問題を周知しました。

党鶴岡地区委員会と党市議団は十二月、新年度予算編成にあたって市への要望書を提出する際に、皆川市長に重要事項として事業中止を求めるよう要請し、住民の活動の後押しをしました。

### 市が事業中止を求める決断

二三年二月一日、皆川市長が記者会見をおこない、「事業の中止を求める」と表明しました。その理由としてラムサール条約との関係、クマタカなどの猛禽類の生息・営巣、渡り鳥や自然環境への影響、市ガイドラインに掲げる自然環境や歴史・文化的資源から構成される良好な景観を形成する区域であり、予防的措置の観点も含めた判断との見解が示されました。「反対する会」では市の判断を歓迎するとともに、引き続き一万筆の署名目標をやりきり、JREが断念するまで頑張ることを確認

し行動が進められました。

一方で、二三年三月市議会に、市の判断に異議を訴えた加茂地区の住民三人から「市の中止申し入れの撤回を求める請願」が提出され、継続審査になった六月議会で自公会派等の賛成多数で採択されました。市は、その対応として加茂地区で七月二十七日に説明会を開催し、中止を求めた市の見解を住民に説明し理解を求めました。

翌日JREから八森山風力発電の風車付近で「クマタカの死骸を発見」との驚くべき報告が市にもたらされました。バードストライクの疑いもあるクマタカの死骸の発見時期が六月下旬で、環境省への報告が七月中旬だったことも判明しました。

発見時期は市議会で請願の継続審査中で、市への報告が建設予定地の市の説明会の翌日。JREの対応は、疑念と憤りを禁じ得ないものでした。さらに「反対する会」で環境省にクマタカ死骸の事実確認をしたところ、JREが冷凍保存して詳細調査がされていないことも判明し、



「反対する会」の署名活動

その後環境省に譲渡され解剖・死因調査がされました。

### 一万筆超の署名提出後、 計画断念

「反対する会」は、粘り強く署名活動を続け、目標を超えて集まった一万二百三十二筆を八月二十九日に市に提出しました。受け取った皆川市長は「事業者に一万筆の重みを受け止めていただきたい。中止を求める立場は変わりなく、署名を受けて

しっかり対応する」と表明しました。

十月十六日、市に対してJREから事業撤退を社内決断したとの報告がありました。計画断念の理由は、独自に委託した鳥類調査で、予定地上空の風車の周辺で飛翔するケースが多く、鳥類への影響と環境保全の観点からだとしています。

十一月九日には東北地方環境事務所から市に対して、クマタカの解剖検死結果の報告があり、絶滅危惧種であるクマタカの死因が、当該風車と衝突したことに起因して死亡した蓋然性が高いと判断された旨の見解が示されました。

ラムサール条約の重要性、鳥類や自然環境へ影響を訴え、関係役員も加わり知恵と力を集め、地域住民とともに「反対する会」が活動を展開し、市の判断を後押しして断念に追い込みました。いま気候危機への対応と、住民合意を得た地域循環型の再生可能エネルギーの導入は重要な課題です。引き続き地域のみならずと力を合わせ頑張りたいと思います。

(すがい・いわお)

## 「国保資格証明書」発行 数百件から六件に激減 (北海道・北見市)

党北海道・北見市議  
菊池豪一



二〇二三年九月の定例市議会前のことでした。「議員にはいつも怒られていますが、資格証明書が大きく減ると答弁できます」と、国保医療課長がうれしそうに話しかけてきました。私は、「桁かな」と聞くと、「いや、多分一桁」と、普段は控えめな課長ですが、自信ありげでした。

### 全道最多発行の札幌市と 並ぶレベル

十月の決算審査で、桜井由美子議員が「現在の資格証明書の発行数」について質問すると、市は「発行数は六件です」と答えました。コロナ禍では国の措置で発行はゼロでしたが、それ以前と比較すると激減です。これにより、国保加入者の病院



受診の権利が大きく改善されることになります。北見市の資格証明書の発行数は二〇二〇年で三百四十件でした。国保料滞納世帯が千三百二十二世帯ですから、滞納世帯の四軒に一軒の割合で「資格証明書」が発行されるという深刻な事態だったのです。

それ以前では、六百件を超える時もありました。道内百七十を超える市町村・広域連合の中で、三桁を超える資格証明書の発行はまれであり、北見市の状況は、全道最多発行の札幌市と加入者比で肩を並べるレベルの発行数でした。